



2019年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年7月31日

上場会社名 ホウライ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9679 URL <http://www.horai-kk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷澤 文彦
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務企画部長 (氏名) 大地 清 TEL 03-3546-2924
 四半期報告書提出予定日 2019年8月1日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の業績 (2018年10月1日～2019年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	3,868	1.7	57	2.3	251	20.0	882	417.6
2018年9月期第3四半期	3,805	0.4	56	△40.2	209	△19.0	170	△27.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第3四半期	631.95	—
2018年9月期第3四半期	122.06	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第3四半期	21,083	8,430	40.0
2018年9月期	17,963	7,625	42.5

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 8,430百万円 2018年9月期 7,625百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期 (予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年9月期の業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,700	6.8	290	27.7	440	2.0	1,050	206.8	751.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期3Q	1,404,000株	2018年9月期	1,404,000株
② 期末自己株式数	2019年9月期3Q	7,566株	2018年9月期	7,512株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期3Q	1,396,443株	2018年9月期3Q	1,396,666株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（日付の表示方法の変更）

「2019年9月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(追加情報)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益が総じて良好な水準を維持し、雇用・所得環境の着実な改善により、個人消費の持ち直しの動きが継続する等、景気は緩やかな回復基調で推移しました。ただし、米中貿易摩擦の動向、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響等、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社は各事業がそれぞれの特性に応じた施策の推進に努めました。営業収益は、保険事業、千本松牧場、ゴルフ事業は前年同期を上回り、不動産事業は前年同期を下回りましたが、全体では前年同期比増収となりました。営業総利益は、保険事業、不動産事業、ゴルフ事業は増益となり、千本松牧場は減益となりましたが、全体では前年同期比増益となりました。一般管理費は法人事業税の外形標準課税部分の増加を主因に前年同期を上回りましたが、営業利益は前年同期比増益となりました。

当第3四半期累計期間の経営成績は、営業収益が3,868百万円(前年同期比62百万円増)、営業総利益は543百万円(前年同期比27百万円増)、一般管理費は485百万円(前年同期比26百万円増)となり、営業利益は57百万円(前年同期比1百万円増)となりました。営業外収益にゴルフ会員権消却益152百万円(前年同期比37百万円増)を計上したことを主因に、経常利益は251百万円(前年同期比42百万円増)となりました。銀座ホウライビルの譲渡による固定資産売却益5,324百万円を特別利益に計上するとともに、代替資産として取得した賃貸不動産に関する固定資産圧縮損1,319百万円と代替資産の追加取得に備えた圧縮未決算特別勘定への繰入額2,954百万円を特別損失に計上したこと等から四半期純利益は882百万円(前年同期比712百万円増)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

①保険事業

お客様とのリレーションを強化し、リスク分析に基づくそれぞれのニーズに応じた保険商品の提案を行うコンサルティング営業を推進しました。営業収益は、生命保険分野は法人の新規成約を主因に、損害保険分野は新しいお客様の契約獲得、並びに既存契約の更改が順調に推移したことを主因に、両分野とも増加し、全体で865百万円

(前年同期比17百万円増)となりました。営業原価は、営業体制強化による人件費増により前年同期を上回り、営業総利益は331百万円(前年同期比4百万円増)となりました。

②不動産事業

銀座ホウライビルの譲渡に伴う賃料収入の減少を主因に営業収益は1,126百万円(前年同期比41百万円減)となりました。営業原価は池袋室町ビルの大型改修工事関連の経費がなくなったことに加え、銀座ホウライビル関連の経費の減少もあり前年同期を下回り、営業総利益は423百万円(前年同期比16百万円増)となりました。

③千本松牧場

秋の行楽シーズンをはじめゴールデンウィークにいたるまで、各種企画やイベントの開催、旅行会社・近隣観光施設との連携強化、各種メディア露出を活用した広告宣伝等により、多くのお客様にご来場いただけるように努めました。天候にも恵まれ、ご来場者数は前年同期を上回り、食堂・売店・アミューズメント等直販サービス部門の売上は前年同期比増収となりました。営業推進部門は、量販店等の既存お取引先への乳製品等の販売が安定的に推移し、売上は前年同期比増収となりました。酪農部門は、秋以降の寒暖差等により、牛のコンディションが悪化しましたが、飼養環境の整備により1頭あたりの搾乳量の増加に努めたことから生乳販売量は前年同期並みとなり、売上は前年同期比増収となりました。

この結果、営業収益は部門全体では1,360百万円(前年同期比74百万円増)となりました。営業原価は、増収等による売上原価の増加に加え、大手運送会社の配送料の値上げを主因とした経費の増加により前年同期を上回り、営業総損失は83百万円(前年同期比1百万円悪化)となりました。

④ゴルフ事業

男子プロのサードクオリファイイングトーナメントの開催、プロテスト一次予選等の各種競技会誘致や、テレビ放映等のメディアを活用した広報により、引き続き「戦略的なチャンピオンコース」としての認知度向上に積極的に取り組みました。また、多彩なコンペ企画の実施や、大口コンペ誘致に向けた営業を強化することで、ご来場者の増加に努めるとともに、レストランメニューと売店の品揃えの改善や、プレー料金の見直し等を通じ、収益の増強に努めました。この結果、ご来場者数は前年同期並みにとどまりましたが、営業収益は516百万円(前年同期比11百万円増)となりました。営業原価は、コストコントロールの徹底で経費圧縮に努めましたが、設備更新に伴う減価償却費の増加を主因に前年同期を上回り、営業総損失は127百万円(前年同期比7百万円改善)となりました。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,925,250	6,823,774
受取手形及び売掛金	352,772	306,259
商品及び製品	128,713	139,761
仕掛品	6,688	21,795
原材料及び貯蔵品	59,321	53,600
その他	63,692	96,154
貸倒引当金	△565	△375
流動資産合計	4,535,871	7,440,969
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,926,123	2,798,423
土地	7,056,555	7,278,212
その他(純額)	2,416,053	2,467,330
有形固定資産合計	12,398,732	12,543,966
無形固定資産	53,949	39,804
投資その他の資産		
その他	998,037	1,081,572
貸倒引当金	△23,000	△23,000
投資その他の資産合計	975,037	1,058,572
固定資産合計	13,427,719	13,642,343
資産合計	17,963,591	21,083,312
負債の部		
流動負債		
買掛金	81,700	77,244
未払法人税等	50,081	352,588
引当金	42,819	26,937
圧縮未決算特別勘定	43,917	3,002,351
その他	1,302,438	728,669
流動負債合計	1,520,957	4,187,792
固定負債		
長期預り保証金	8,345,239	7,972,710
引当金	137,660	139,131
資産除去債務	117,591	118,381
その他	216,364	234,829
固定負債合計	8,816,855	8,465,052
負債合計	10,337,813	12,652,845
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,340,550	4,340,550
資本剰余金	527,052	527,052
利益剰余金	2,661,536	3,474,197
自己株式	△18,313	△18,450
株主資本合計	7,510,824	8,323,350
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	114,953	107,117
評価・換算差額等合計	114,953	107,117
純資産合計	7,625,778	8,430,467
負債純資産合計	17,963,591	21,083,312

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位: 千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
営業収益	3,805,917	3,868,851
営業原価	3,290,005	3,325,339
営業総利益	515,912	543,512
一般管理費	459,336	485,621
営業利益	56,575	57,890
営業外収益		
受取利息	176	177
受取配当金	22,086	24,768
会員権消却益	115,060	152,420
その他	16,699	19,351
営業外収益合計	154,022	196,716
営業外費用		
支払利息	188	149
乳牛除売却損	249	2,187
その他	560	654
営業外費用合計	998	2,991
経常利益	209,599	251,616
特別利益		
固定資産売却益	—	5,324,684
特別利益合計	—	5,324,684
特別損失		
固定資産除売却損	4,563	11,178
固定資産圧縮損	—	1,319,465
投資有価証券評価損	—	40,000
圧縮未決算特別勘定繰入額	—	2,954,464
特別損失合計	4,563	4,325,108
税引前四半期純利益	205,035	1,251,192
法人税、住民税及び事業税	22,394	371,587
法人税等調整額	20,349	△2,880
過年度法人税等戻入額	△8,188	—
法人税等合計	34,554	368,706
四半期純利益	170,481	882,485

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。